

仏塔



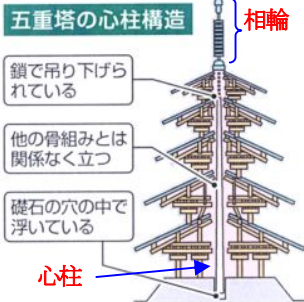
瑠璃光寺五重塔 (国宝・室町時代)
日本三名塔の1つ・山口市



安楽寺八角二重塔
(国宝・鎌倉時代末期)
長野県別所温泉



石山寺多宝塔 (国宝・鎌倉時代初期・滋賀県大津市)
最も美しい多宝塔



スリランカの黄金の仏塔 (タイパゴカ)
法門寺塔 (中国)

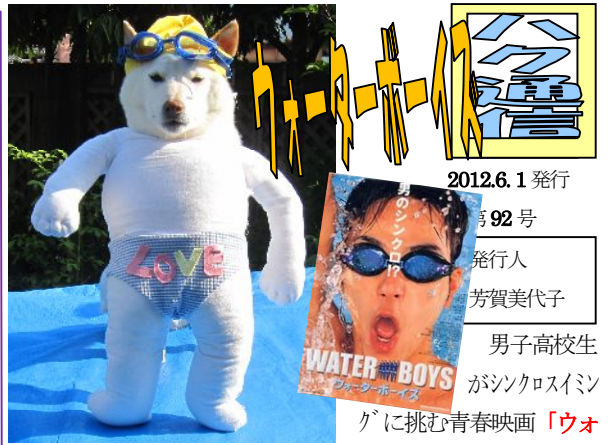
待望の世界一の電波塔「スカイツリー」が開業。技術立国日本の技を結集した超高層建築物の地震対策には五重塔の構造が取り入れられたことで話題になった。落雷による焼失(一番多い)や戦火、類焼はあるが、地震で崩壊した五重塔の記録はないという。にわか注目浴びた五重塔を調べることにした。

仏塔は仏舎利塔の略で、古代インドで**仏舎利(釈迦の遺骨)を祀ったスツパ(墳墓)**が起源の仏教建築物。サンスクリット語(梵語)でスツパは中国に渡って「卒塔婆」と訳され、それが簡略され「塔」となった。スツパは土饅頭に盛り土した上に傘の様な棒をさし、倒れないように囲いをしたもので仏塔の原形。釈迦入滅(紀元前480年頃)後、8等分された仏舎利は周辺国のスツパに奉納、崇拝される。200年後、インドを統一したアショカ王は埋葬された仏舎利を集め、米粒ほどの大きさに砕き、仏教圏の8万4千の寺院に寄進、仏塔が建てられた。仏教が盛んになると、多くの寺院が仏塔を建て祀るようになり、仏舎利が不足すると宝石や経文、高僧の遺骨が代用されるようになった。中国の仏塔は「高い所に神が宿る」という思想をもとに楼閣(内部に階段があり展望できる)の上にスツパを載せる形となった。スツパは塔の頂きに立つ相輪へと姿を変えた。日本の仏塔は中国伝来の建築様式をとるが、内部は空洞で中心に“心柱しんばしら”と呼ばれる太い柱がある木造の多層塔(五重塔・三重塔・多宝塔など)。日本には「御柱」に象徴されるように“巨木は天と地を結ぶもので、柱を介し神が降りてくる”という**柱信仰**があった。それゆえ、神社仏閣に使われる柱は必要以上に巨木(呪力ある神木)だった。仏塔の心柱は構造上必要でない柱だが、巨木を囲うことで建物内を自然の驚異から守り、内部を神聖な場所とした。また、心柱は相輪を支えるもの、建物は心柱を保護するものであるため、心柱は建物と関係なく立っている。心柱は地中に埋めたもの、地上の土台や一層目の梁上に、五層目の屋根に固定したものと構造は変化していくが、いずれも根元は固定されていないため耐震制御の働きがあったようだ。日本の仏塔にある仏舎利は①相輪(金属製の部分で頂きにある宝珠)の中②心柱の下③心柱の中のいずれかに収められているが、大方は代用品。奈良時代前期は聖なる建物として信仰の対象だったが後期になると仏像が主となり、仏塔は寺院のシンボリックなものになる。国宝の仏塔は五重塔11、三重塔13、多宝塔6。最古は法隆寺五重塔で最大は東寺五重塔。

89歳で作家デビューした**久木綾子**さんの著「**見残しの塔**」文春文庫は瑠璃光寺五重塔建設に携わった宮大工の話。専門家に教えを乞い、宮大工に弟子入り、五重塔に魅せられ旅すること35回。完成まで19年要したという大作。平氏と源氏の末裔との淡い恋の結末は……



ライチ 楊貴妃がこよなく愛した果実は今が旬。私も大好きで冷凍に甘んじていたら、息子がこっそり中国から生のものを持ってきた。全くの別物の味。以来、忘れられず沖縄産をネットで取り寄せたが酸っぱいだけで、今年は台湾産を注文。届くのが楽しみ。



2012.6.1 発行

第92号

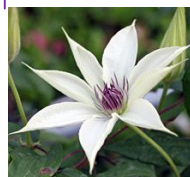
発行人
芳賀美代子

男子高校生
がシンクロスイ
ン

「ウォーターボーイズ」が2001年に公開。男子のシンクがあることを初めて知った。リリックで見る女子シンクの華麗な足さばきにはため息がでるが、こちらはアクロバットな水中ショーでとにかく楽しい。川越高校水泳部の文化祭限定のパフォーマンスをフィルムにした映画で大ブレイクする。全国に男子シンク部ができ、全国大会がある。この映画でシンク指導をしたのが、世界で唯一の**水中パフォーマンス集団トゥリトネスの主宰・不破央さん**。全国のプールのある所でショーを展開。ユチューブで見られるが一度TVで見たい。

海を渡った日本の花たち

東日本大震災直後の津波で生き残った「奇跡の1本松」と同じアイカマツや被災地域のキビ、アリなどの種が英国王室植物園「**キューガーデン**」の種子バンクに永久保存されることになった。キューガーデンは世界で最も有名で膨大かつ貴重なコレクションを有する世界遺産の植物園。17世紀から20世紀にかけて、観賞用植物の新種や植民地での栽培可能な商品作物を求め、世界中を探検した**プラントハンター**がいた。世界中の植物を集め、栽培育成、品種改良の研究機関として1759年に設立されたキューガーデンはプラントハンターを世界各地に派遣した。幕末に日本を訪れた最も有名なプラントハンターはドイツ人医師**シボルト**と中国からインドに茶の木を移植して有名になった**ロバート・フォチュン**。シボルトは6年間滞在し、生の植物485種類1200個体を船積みし、灼熱の赤道を二度通過、海水をかぶり半年の航海で無事ラダグに持ち帰ったのは260種のみ。彼は**アジサイ**、**山吹**、**椿**(上流階級に愛された花)**ギボウシ**(葉・花・実が完璧と評価、超人気)**アセビ**、**カノコユリ**(ルビーヤガーネットが付いていて水晶のような輝きと絶賛)**ヤマユリ**(コリの王者と称され大ブーム。球根は同じ重さの銀で取引、日本の重要な輸出品となる)**梅花ウツギ**、**姉ガクマ**(クレマスの原種・絶滅危惧種)などを紹介した。フォチュンはかつて日本から持ち込まれた**アサギ**が雌木のみで実がならなかったため雄木の採取が目的で来日。**雪割草**や**アサギ**、**菊**、**ツツジ**、**桜草**、**九輪草**、**アサノハ**、**コヤマキ**などを英国に持ち帰り、今ではヨーロッパのどこでも見られる植物となった。



カザグルマ



雪割草(姉ガクマの八重) カノコユリ



ギボウシ



アオキ



アセビ(馬酔木)